

堀田後援会の  
拡大強化へ

風

発行所  
日賢逸後援会  
醍醐字醍醐98-2  
0182-25-4011  
[amber.plala.or.jp](mailto:amber.plala.or.jp)

この度の後援会機構の見直しや、会員の募集で本会の発展が図られ堀田氏の議員活動にはぜひがつき地域发展につながるよう一丸となつて取り組みたいと思っております。  
つきましては広く有権者の皆様のご支援御協力を切にお願い申し上げる次第であります。

堀田氏の弘子夫人も六月一杯で郵便局を依頼退職され後援会事務にお手伝いしています。従前からすれば誠に心強い限りです。

会員諸氏のご理解と御協力をよろしくお願いします。（編集部）

果樹栽培の方々は今リンゴの摘果で大忙しの事と思います。身近な問題として市町村合併があります。当初一市五町村で協議会が発足し協議を重ねてきましたが、今年になつて十文字町、増田町が加わり新たな展開となりました。新市名は「横手市」と決まりました。議員の任期も特例措置を適用しないことに決まりました。

合併が決まるに必ず市長、市議会議員の選挙を行なうことになります。私は後援会もそれに向かって今から準備をしておかなければならぬと思います。

本年度の後援会総会の事業計画に「会員募集」がありました。

広く会員を募って、後援会の基盤を磐石にし地域活動につなげていきたいと思ってます。皆様のご理解、御協力を切にお願い申し上げます。

二十七秒

伊藤  
武三

母親におもちゃやねだる子供が、あきらめられたまでの時間を研究したオーストラリアの心理学者がいたそうだ。それが大体二十七秒であることを本に書いてある。

その事を教えがましく言う積りはない。しかし、こ

あるようだ。

二十七秒と言う時間は「あつ」と言う間の時間であつたが、これに動かされる人間の心理は、考えようによつては重大である。二十七秒と言う時間がくり返されて、人生が出来上るのであるが、これを知つてからはずしてかことばは重大である。

どうさの間こことばが出来る。こうどうさの間こ、こう

言葉を聞く人にどんなひびきを与えるかを考えると、人は、ふだんよくこのことを心しておかねばなるまい。どうさの間に出てことばを粗末にしないで、よくあらだん、自分のことばに注意したいものだ。

のだが、確かなものが見えない。痛みだけは確かなものとして分かる▼夏本番に向け、いよいよ風鈴の季節、「時の風」かもしれないが、痛みを伴う風は吹いてはしくない。痛風や時の風の痛みを抑える特効薬は無いものだろうか。

後援活動の今後

後援会長 藤原 正

# 私の一般質問

(六月議会)

堀田 賢逸

## ◇醸醸小学校のペアガラスのくもり解消について

解消について

平鹿町には四つの小学校と一つの中学校があります。

私は教育厚生委員会に所属していますので年に一回ほど学校視察があります。

その時に各学校から多くの要望が出されます。その中の一つに「醸醸小学校のペアガラスのくもり解消」の要望がありました。

調べてみると醸醸小学校は築24年となり、当時最新であつたペアの窓ガラスもゴムのパッキンが劣化しそこから水分が入り、それが蒸発してガラスが汚れ、ペアガラスのため窓拭きもできず年中この状態なようです。これが最低5年間は続いていました。

現在平鹿町以外の荒れた学校の話を聞くたびに教育は大変だと思っていましたので、教育環境の立場から、早速一般質問に取り上げてみました。

町長答弁では「昭和55年に建てられ24年経過、現在の建設基準法には合致していない。平成17年危険校舎の指定になる見通しだ。耐震診断を実施し、3年内に耐震強度を高める大規模改修をすることになつていて。事業規模3億円程度の大きな事業である。この事業の中でペアガラスの問題も解消したい。」

教育長は「情緒面で動搖するような子供たちではない」と頼もしい発言でした。

そこで再質問「父兄の方々もそのまま放置しておくことは不満があるのではないか。また子供たちに卒業してから思い出として語られるのはうまくないのではないか」と再質問しました。そして次のような答弁を引き出すことが出来ました。

町長答弁「私も気が付いたばかりなので、どれくらいかかるか、検討してみて、少しでもやれる手段があれば、子供たちが気持ちよく卒業していくよう考えていく。醸醸地区は天災等が少なく、窓ガラスも24年間も割れず補修費もかけなくて済んだわけです。ところがガラスの教室から澄んだ見通しの良い教室の思い出を抱いて卒業してもらえそうな感触を得たところです。将来に及ぼす効果を大いに期待したい」と

## ◇自前財源を作ることは出来ないか

## ◇ニーズに応えるホームページ

町営住宅  
醸醸地区に建設

バブルもはじけ景気も悪く、税収の伸びもなく事業をやるにもなかなか進まないのが現状です。

ところが、風力発電などで発電した電力を売ることで自前財源を作り、基金約70億円も積み立てている町が高知県にあります。

構原(ゆすはら)町です。高知県と平鹿町では環境にかなりの違いがありますが、昔、「杉」を植えたように、今何が出来るのか常に考えておくことが必要だと考えました。そのためえて一般質問いたしました。

構原(ゆすはら)町です。高知県と平鹿町では環境にかなりの違いがありますが、昔、「杉」を植えたように、今何が出来るのか常に考えておくことが必要だと考えました。そのためえて一般質問いたしました。

平鹿町では町民への情報発信の方法として、広報「ひらか」を利用しています。この他にインターネットを使ってホームページを開いています。

広報「ひらか」とホームページの違いは、広報「ひらか」は特定多数が対象で一方的に情報を発信しています、活字で保存でき、資料性があります。

ホームページは不特定多数が対象で、瞬時に、双方の情報交換が出来る特徴があります。

ホームページは新鮮さがありましたが、書き換えなどをしていない部分があります。

大切なにいつまでも、書き換えなどをしていない部分があります。

由について質問しました。

答弁では平成14年度から各課1名の情報化リーダーを選びホームページ作成の研修会に取り組んでいます。町は責任をもつて発信しなければならない。ホームページに関して面白い提案があれば町民の参加も含め検討したい。具体的な提案をして欲しい。とありました。

合併後中心部が遠くなると言われています。

その使命は益々重要となつてきます。

## 良くある質問コーナー

例えば吉田小学校は五十年田団地跡で二年から六年までは一クラス

スなのに一年生は二クラスとなつていま

ます。

将来に及ぼす効果を大いに期待したいと

ころです。

います。

います。